



## 三重なす塔



## 2月の校長講話「冬季オリンピックから考える私たちの未来」

皆さん、こんにちは。冬のオリンピック、見ていますか？『ミラノ・コルティナ・オリンピック』ですね。実は、2つの街の名前がついています。これは100年以上の歴史があるオリンピックで初めての事です。なぜ2つも名前があるのか。それは、環境を守るために『新しく建物を作らず、今ある施設を離れた街同士で分け合って使おう』という、地球への優しさから選ばれた形なのです。4カ所の会場で行われています。

今日は「冬季オリンピックから考える私たちの未来」というテーマで話をしたいと思います。

まず、冬のオリンピックにちなんで「数字」のクイズを出したいと思います。最初の数字はこれです。「18」さて、これは何の数字だと思いますか？ヒントを出しますね。2022年の北京オリンピックの数字です。

わかった人もいいかもしれませんね。オリンピックのメダルの数です。北京大会は最多のメダル獲得数となりました。2月16日現在、ミラノ・コルティナ・オリンピックのメダル数は17個。前回を超える勢いとされています。まだまだ獲得に期待ができますね。

では、次の数字です。21→10

さっきと少し数が変わりましたね。ヒントを出します。10は2040年です。未来の数字です。少し難しいかもしれません。「**冬季オリンピックを開くことができる都市の数**」なんです。これまで冬季オリンピックを開催した都市は、世界に21カ所ありました。どこも雪がたっぷり降り、寒さも十分な、冬のスポーツの聖地でした。

ところが2040年には「世界にあと10カ所くらいしか残っていない」と、とても心配されています。なぜだと思いますか？地球温暖化です。雪が降らなったり、気温が上がりすぎたりして、冬の祭典が開けなくなる場所がどんどん増えているのです。そして、この数字には続きがあります。2100年にはどのくらいになっていると思いますか？「1」です。このまま温暖化が進むと、今世紀末**2100年に冬のオリンピックを開催することができる都市は1カ所だけ**になるといわれています。

ミラノ・コルティナ・オリンピック開催にあたり、このような記事がたくさん出ています。詳しいことが書かれていますので興味がある人は調べてみてください。きのうもとても暖かかったですね。このままだと冬のオリンピックはいつまで開催できるのでしょうか。

ショックで悲しい数字ですが、歴史を振り返ってみると、私たちはこうした悲しい数字を、自分たちの力で明るいものに変えることができたことがあります。1つ、紹介します。

今から40年ほど前、世界中の新聞にある『衝撃的な写真』が載りました。南極の上空を映した衛星写真です。そこには、地球を包むバリア、オゾンホールに、ぽっかりと大きな穴が開いている姿が写っていました。理科の授業で習ったことがあるかもしれません。オゾン層が破壊されることがで、紫外線量が増え、植物や人体に悪影響を及ぼすといわれました。新聞には、『21世紀、子どもたちは太陽の下で遊べなくなる』という怖い見出しも並びました。今の温暖化のニュースと同じ、あるいはそれ以上に、当時の大人たちは『地球はもうダメかもしれない』と本気で焦っていたのです。

でもそれから40年、2023年の新聞には、こう書かれています。『南極のオゾン層「**2066年ごろ回復**」』世界中の人々が手を取り合って、原因となるガスを使わない新しい冷蔵庫などを発明、ガスを出さない努力をしました。一度壊してしまった地球を、人類は自分たちの知恵で回復させています。

この「2100年に、開催できるのはあと1カ所だけ」という数字。これも決定された未来ではありません。あくまで「今のままなら、こうなってしまう」というメッセージにすぎません。

では、この数字を「1」から「21」に書き換えるのは誰でしょうか。それは、他の誰でもない、**今ここで私の話を聞いてくれる、皆さん一人ひとりです。**皆さんが毎日受けている授業。その1つひとつが、地球の未来の数字を書き換えるための大切なステップになっています。理科や数学はただ公式や名前を覚えるだけの時間ではありません。この世界の仕組みを知り、どうすれば問題を解決できるか、その「考え方」をトレーニングする時間です。温暖化を止めるための新しいエネルギーの仕組みを考えたり、無駄をなくすための計算をしたり。皆さんが今、教室で粘り強く答えを探しているその姿勢が、将来、地球を守るための「確かな力」に繋がっています。技術科と家庭科は、その考えを「自分の生活」に結びつける時間です。技術科で「ものづくり」を学ぶことは、限られた資源をどう大切に使い、より良い仕組みを作るかを考えることです。そして家庭科は、日々の暮らしを見つめ直す時間です。何を買い、どう食べ、どうゴミを減らすか。自分たちの生活を少し工夫するだけで、地球への優しさは形になります。家庭科の学びは、今日からでも始められる「一番身近な実行力」を教えてください。

でも、どんなに良い技術があっても、世界中でケンカをしていたら解決には向かいません。そこで大切になるのが、社会、国語、そして英語です。社会科で世界のつながりを知り、国語や英語で「自分の思いを伝え、相手の考えを理解する力」を育てる。考え方が違う人たちとも、対話を重ねて協力し合う。この「人と人をつなぐ力」こそが、世界を一つにするための大きなバリアになります。そして、美術、音楽、体育。これらは、「なぜ地球を守るのか」を心で感じる時間です。自然の美しさ感動したり、音楽で心を動かしたり、スポーツで仲間と全力で楽しんだり。こうした「素晴らしい」と感じる心を大切にしているからこそ、「この世界を未来に残したい」という強い気持ちが生まれるのです。守るべき価値を心で知っているからこそ、人は困難に立ち向かう勇気を持てるのです。

**未来の数字を書き換えるのは、皆さんの好奇心と、優しい心、そして挑戦する勇気です。**皆さんのこれからの学びに、私は心から期待しています。



## 2/6(金)地域参観日へのご参加、ありがとうございました

今年度最後の地域参観日がありました。多くの保護者の方々に参観していただき、ありがとうございました。今回は、2~3学期に取り組んできた、総合的な学習の時間「AJT(青木・自分・探究)タイム」の活動をご参観いただきました。小学生から高校生まで含めて、現在は自分の興味関心に基づいて追究する「探究」の時間が重要視されています。青木中では、2年前からこの活動を少しずつ増やし、様々な取組を重ねています。

1年生は「青木村未来プロジェクト2025」をテーマに、活性化・少子化・観光地化のグループに分かれ、青木村のためにできることを考えて探究しました。



2年生は「躍進!豊かな世の中へ!~誰かのために、自分の好きなことを活かした探究をしよう~」をテーマに、青木村だけでなく、自分の興味関心に基づく追究も行いました。青木村の魅力を伝える人もいれば、自分の興味から実験を行った人もいて、個人追究がしっかりと進められていました。



3年生は「〇〇のために生きる私」をテーマに、今年度導入されたインスパイア・ハイというメディアを利用しながら、地域と自分(人間)の両方の視点をもって探究とまとめを行いました。3年生の追究はさすがで、実際に青木村の魅力を発信するだけでなく、その結果を分析して、より効果を得るための方法を考えていました。行動(活動)のみならず、分析まで行っているところに、説得力を感じました。



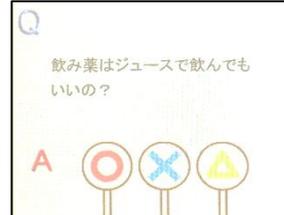
翌週に行われた「AJT タイム全校まとめの会」には、共同研究をしてくださっている信州大学学術研究所の小倉先生が来てくださり、講評をいただきました。小倉先生から「総合的な学習の時間で**知恵を働かせる**ことをたくさん積み重ねてほしい。振り返りがとても大切なので、自分の活動をその都度振り返って、**根拠をもって**自分の考えを述べられるようになると、さらにより探究につながる。」との言葉をいただき、青木中の探究活動のよさと課題を教えてくださいました。今後もさらに発展した追究を重ねられるように工夫し、この時間を大切にしていきます。

## 薬物乱用防止教室を行いました

2/3(火)に、全校一斉で薬物乱用防止教室を行いました。3名の薬剤師さんに講師としてお越しいただき、各学年にあったテーマでお話いただきました。

1年生は、たばこ・お酒の影響などについて、2年生は身近で安易に手に取れてしまう薬物の問題として、近年問題視されている市販薬を含めた薬物のオーバードーズ(過剰摂取)を中心に学習しました。

3年生は今後の社会に出たときにより切実な問題となってくる薬物(大麻や覚醒剤など)について学習しました。大切なのは、そこに関わらない意思や断れる勇気といった「自分自身の気持ちと行動」ということがどの学年も共通していました。詳細は保健だよりでお知らせしていますので、そちらも合わせてご覧ください。いつまでも青木村らしい、誠実で優しい人でいてほしいと願っています。



## ☆☆3月の予定 ☆☆

2日(月)2年修学旅行結団式、荷物検査、行動訓練      3日(火)~5日(木)2年修学旅行      6日(金)2年計画休業  
10日(火)、11日(水)公立後期選抜、3年特別日課スタート      16日(月)生徒会退会式      17日(火)3学期終業式  
18日(水)卒業証書授与式      19日(木)公立後期選抜合格発表      24日(火)PTA 会計監査・三役引継ぎ会  
27日(金)新2,3年登校日